

陸上競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)日本陸上競技連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、陸上競技場第4ゲート付近に設ける。
- (2) スタートコールは、「イングリッシュコール」とする。
- (3) 不正スタート(フライング)は、1回目で失格とする。
- (4) 視覚障害者の50mは、競技役員によるハンドマイクに収納した音源又は許可された者(コーラー)による音源を用いる。
- (5) 視覚障害者の競走競技で伴走者ありの場合は、必ず紐等を持つこととする。紐は非伸縮性で50cm以内のものとする。
- (6) 投てきの試技は、3連投とする。
- (7) 競技記録は、陸上競技場室内走路に設けた記録掲示板に掲示する。

3 その他

- (1) 「競技組み合わせ」(プログラム)に記載している各競技の招集時間を厳守すること。
- (2) トラック種目(スラロームを除く)に出場する選手は、大会当日招集所で配付する腰ナンバーカードを右腰(車いす使用者は右側の見やすいところ)に付けること。
- (3) 障害区分24(視覚障害者)の者は、光を通さないアイマスクを装着し競技を行うこと。また、招集所及びゴール直後にアイマスクの点検を行う。
- (4) 競技場への入退場
競技関係者(選手・伴走者・競技役員・補助員等、直接競技運営に携わる者)以外の者は、トラック及びフィールド内に入場することはできない。
ただし、介助が必要である等として申し込み時に申請し、主催者の許可を受け、IDカードの配布を受けた者(介助者)は、この限りではない。この場合も、大会における介助者の役割をよく理解し、これを守らなければならない。
なお、上記競技関係者については、大会の公式な記録を取ることを目的に特別に事務局が許可した者を除き、カメラ類の持ち込みは厳禁とする。
- (5) 表彰は随時行う。

水泳競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)日本水泳連盟競泳競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、プール西側(本部席の反対側)の選手控室前プールサイドに設ける。
- (2) スタートコールは、「イングリッシュコール」とする。

- (3) 2種目に出場する選手で、1種目目の競技終了時間から2種目目招集完了時間までが10分以内の場合は、当該選手の代理の者がその旨を申し出、代行することができる。
- (4) 千葉県国際水泳場の水深は2mであるが、レースを実施するコースについてはスタートと折り返し地点に80cmの低床フローアを敷く。
- (5) 競技記録は、選手控室入口付近と2F受付横に設けた記録掲示板に掲示する。

3 その他

- (1) 視覚障害者選手のタッピングを許可された者は、タッピング棒を各自で用意すること。
- (2) 水着は、FINA承認水着を原則とする。ただし、形状（身体を覆う範囲）等が競技規則・解説および次のとおりであれば許可する。
 - ①男子はへそを超えず、膝までとする。
女子は肩から膝までとする。ただし首、肩を覆うことはできない。（セパレートの水着も可）
 - ②素材は繊維のみとする。（ファスナーは認められていない）
- (3) 障害区分23（視覚障害者）の者は、光を通さないゴーグルを装着し競技を行うこと。また、ゴール直後にゴーグルの点検を行う。
- (4) 表彰は随時行う。2種目目の競技時間の重複により表彰に参加できない場合は、2種目目の競技終了後、表彰者待機所でメダルを受け取る。
- (5) 当日の競技は、別表の種目順に行うので、参加申し込み時に参考にする。ただし、編成上、やむを得ず種目順を変更することがある。
- (6) 介助犬については、1Fエントランスホールに待機所を設けるので、そこに繋ぐこと。

(別表) 種目順

1	25m自由形	6	50m背泳ぎ
2	25m背泳ぎ	7	50m平泳ぎ
3	25m平泳ぎ	8	50mバタフライ
4	25mバタフライ	9	200mリレー
5	50m自由形	10	200mメドレーリレー

卓球競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、体育館内本部席近くに設ける。
- (2) 競技用服装は、JTТА（日本卓球協会）承認のものでなくてもよい。
- (3) ボールは、直径40mmプラスチックボール（Nittaku）を使用する。
- (4) タイムアウト制は導入しない。
- (5) 1マッチは、5ゲームとする。マッチの勝敗は、3ゲーム先取した競技者を勝ちとする。
- (6) コートには、アドバイザー（監督、手話通訳など）または特段の理由による介助者

を選手1人につき1人帯同することができる。ただし、特段の理由による介助者は、競技場内で競技者の競技上有利となるような助言等をしてはならない。

介助者を同伴する場合は、参加申し込み時に申し込むこと。

(7) 対戦表及び競技結果は、体育館入り口付近に掲示する。

3 その他

(1) 表彰は随時行う。

(2) ラバーの張替えは、所定の場所で行うこと。

サウンドテーブルテニス競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

(1) 招集は、試合前に点呼するので、競技者はホール内で待機する。

(2) 競技用服装は、JTTA(日本卓球協会)承認のものでなくてもよい。

(3) 光を通さないアイマスク、またはアイシェードを装着し競技を行う。

(4) ボールは、競技規則に定められた規格のものを使用する。

(5) 1マッチは、3ゲームとする。マッチの勝敗は、2ゲーム先取した競技者を勝ちとする。

(6) 場内が騒々しい場合は、主審の判断で一時競技を中断して静かにさせた後、競技を再開する。

(7) コートには、アドバイザー(監督、手話通訳など)または特段の理由による介助者を選手1人につき1人帯同することができる。ただし、特段の理由による介助者は、競技場内で競技者の競技上有利となるような助言等をしてはならない。

介助者を同伴する場合は、参加申し込み時に申し込むこと。

(8) 対戦表及び競技結果は、体育室入り口付近に掲示する。

3 その他

(1) 表彰は、全競技終了後に行う。

アーチェリー競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

(1) 招集所は、フィールド内本部テント付近に設ける。

(2) 対戦表及び競技結果は、大会本部付近に設けた記録掲示板に掲示する。

3 その他

(1) 表彰は、全競技終了後に行う。

ボウリング競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)全日本ボウリング協会制定ボウリング競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、ボウラーズベンチとする。
- (2) 競技方法は、デュアルレーン(アメリカン)方式とする。
- (3) 競技は、すべてスクラッチ(ハンディキャップなし)2ゲームマッチとし、合計得点により順位を決定する。
- (4) 自動式ファウル判定機は使用しないで競技を行い、ファウルラインを超えても意図的なものではない限りファウルとしない。
- (5) オートマチックスコアラーの操作、個人記録カードの記入は、すべて競技役員又は競技補助員が行う。
- (6) シューズ及びボールは、各自で用意することが望ましいが、競技会場のものを使用してもよい(ハウスシューズは有料)。
- (7) 競技記録は、ボウラーズベンチ後方に設けた記録掲示板に掲示する。
- (8) ボウラーズベンチへの立ち入りは、競技役員、競技補助員及び競技者のみとする。

3 その他

- (1) 表彰は、全競技終了後に行う。
- (2) 競技者は、競技中ボウラーズベンチをむやみに離れてはならない。やむを得ず放れる場合は、必ず競技役員に申し出て了承を得ること。
- (3) 競技中の飲食・喫煙は禁止する。ただし、アルコールを含まない飲料をボウラーズベンチ外で飲むことは許可される。

フットベースボール競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版((公財)日本障がい者スポーツ協会制定)に定める以外は、同年度の(公財)日本ソフトボール協会オフィシャル・ソフトボール・ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) チームの構成
チームの構成は、監督1名・コーチ2名・選手15名以内とする。
- (2) 各チームの監督は、試合毎にプレイヤーエントリー票を試合開始30分前までに競技本部に提出する。
- (3) 競技方法
試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。
時間に余裕があればフレンドリーマッチを行うことができる。
同点の場合は、最終出場選手9名(DPを採用しているチームはDEFO(守備者)を除く)の抽選によって勝敗を決定する。

- (4) ベンチは、原則として組み合わせ表の若い番号（トーナメント表の向かって左側に記載されているチーム）が一塁側とする。

3 その他

- (1) 表彰は、全競技終了後に行う。
- (2) 関東ブロック地区予選会には原則として優勝チームが出場することとする。各チームから選抜する場合は、優勝チームの監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

バレーボール競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則平成31年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本バレーボール協会競技規則（国際競技規則）及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

(1) チームの構成

① 聴覚障害者のチーム

監督1名・コーチ1名・マネージャー（手話通訳者等）1名及び選手12名以内とする。監督・コーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督・コーチを含めて12名以内とする。

男女別にチームを構成する。

② 知的障害者のチーム

監督1名・コーチ2名及び選手12名以内とする。

男女別にチームを構成する。

③ 精神障害者のチーム

監督1名・コーチ1名・マネージャー1名及び選手12名以内とする。

監督・コーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督・コーチを含めて12名以内とする。

男女混合でチームを構成する（試合中は少なくとも1名以上の女性プレイヤーが出場していなければならない）。

(2) 競技方法

① 試合はワンボールシステムで行う。

② 試合球

ア. 聴覚障害者の部・知的障害者の部

（公財）日本バレーボール協会検定球5号球（人工皮革・カラーボール）

イ. 精神障害者の部

日本ソフトバレーボール連盟公認球ソフトバレーボール球・糸巻きタイプ
（モルテン製円周 78±1cm、重量 210g ±10g）

- ③ 試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合はリーグ戦形式で行う場合がある。

時間に余裕があればフレンドリーマッチを行うことができる。

④ ルール

ア. 聴覚障害者の部・知的障害者の部

試合は3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝ちとする。

1セット25点のラリーポイント制とする。

また、得点が「24対24」の同点となった場合、それ以降は2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。

第3セットのコート交代は、13点先取した時に行う。

リーグ戦において同率の勝敗で、失ったセット数でも決まらない場合は、チームの総得点と総失点の差で決定する。それでも決まらない場合は、コイントスで決める。

イ. 精神障害者の部

試合は3セットマッチとし、2セットを先取したチームを勝ちとする。

決勝戦以外は1セット15点のラリーポイント制とする。

また、得点が「14対14」の同点となった場合、16点先取したチームをそのセットの勝者とする。なお、第3セットのコートの交代は、8点先取した時に行う。

決勝戦については1セット21点のラリーポイント制とする。

また、得点が「20対20」の同点となった場合、22点先取したチームをそのセットの勝者とする。なお、第3セットのコートの交代は、11点先取した時に行う。

- ⑤ 背番号は1番から12番までが望ましい。やむを得ない場合は、1番から99番までとする。

なお、チーム名、キャプテンマーク、背番号等のサイズは、規定のものとする。

リベロを採用する場合は、他の競技者と区別できるユニフォームを着用する。

- ⑥ 各チームの監督は試合毎にコンポジションシートをプロトコル時に副審へ提出する。

- ⑦ 監督会議の場において、申し合わせ事項を設けることができる。

3 その他

(1) 表彰は、全競技終了後に行う。

(2) 関東ブロック地区予選会派遣

① 聴覚障害者の部

原則として優勝チームが出場することとする。各チームから選抜する場合は優勝チームの監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

② 知的障害者の部

出場選手を各チームから選抜することとする。選手選考会議で選抜チームの監督を決定し、出場選手は監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

③ 精神障害者の部

原則として優勝チームが出場することとする。

バスケットボール競技実施要領

1 競技規則

平成31年度（公財）日本バスケットボール協会競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

(1) チームの構成

チームの構成は、コーチ1名・アシスタントコーチ1から2名・マネージャー1から2名及び選手15名以内とする。ここでいうコーチとは、ゲーム中実際にチームを指揮するものを指す。

コーチ・アシスタントコーチ・マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる。

コーチ・アシスタントコーチ・マネージャーを含めて15名とする。

男女別にチームを構成する。

(2) 競技方法

① 試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。

時間に余裕があれば、フレンドリーマッチを行うことができる。

② 試合時間は、8分クォーター制とし、ピリオド間のインタヴァルを2分、ハーフタイムを10分とする。

第4クォーター終了後、同点の場合は延長戦を行う。（終了後2分休憩、3分延長戦、以後決着がつくまで繰り返す）ただし、決勝戦以外はVゴール方式とする。

③ 出場選手は濃色と淡色（白色）の2種類のユニフォームを用意し、原則として組合せ番号の若いチームが淡色（白）のユニフォームを着用すること。

背番号は0、00番及び1～99番までの番号を使用し、審判とスコアラーにはっきりと分かるように付けること。

④ コーチ会議の場において、申し合わせ事項を設けることができる。

3 その他

(1) 表彰は、全競技終了後に行う。

(2) 関東ブロック地区予選会派遣

出場選手を各チームから選抜する場合は、県代表チームのコーチと関係者で話し合いの上、決定する。